



## 沿岸漁業の担い手対策から

千葉県銚子水産事務所 改良普及課 課長 尾崎 真澄

千葉県の漁業就業者数は、平成20年現在5,916人であり、平成15年から約15%減少しています。また、年齢構成をみると60才以上が58%を占め、全国的な傾向と同様に高齢化が進んでいます。漁業者の減少と高齢化に歯止めをかけるため、千葉県では各種の事業を行っています。ここでは、千葉県で行っている担い手対策の一環を紹介するとともに、これからの人材確保における目指すべき点について考察します。

### 1. 千葉県が行っている担い手対策

#### (1) 青少年水産教室

主に小学生を対象に、地域で活躍している漁業士が講師となって、地域水産業の紹介や漁業の楽しさ、辛さや自分たちの食べる魚が食卓にのぼるまでの話を子供達に伝



青少年水産教室でのワンシーン。子供達は魚を目の前に興味津々。

え、将来の職業選択の一つに記憶してもらえように授業を行います。

#### (2) 高校生インターンシップ事業

主に水産高校（海洋科など含む）の生徒を対象に、職業選択前の実務体験の一つとして、実際の漁業現場を体験してもらいます。まき網や定置網に、最大5日間程度従事し、船上作業や陸上作業に取り組みます。

#### (3) 短期漁業技術研修

上記、インターンシップ事業の「大人版」であり、近年では、「漁業就業者支援フェア」参加者の中で研修希望者を募り、漁業を体験してもらいます。対象漁業種類はそのときどきによりますが、まき網、定置網のほか、刺し網やはえ縄からの募集もあります。

#### (4) 漁業就業者フォローアップ事業

これらの「漁業体験」を経て、実際に漁業に就職した者を対象に先輩漁業者からの体験談や地元への溶け込み方などを話して



まき網漁船現場でのインターンシップ。

もらうほか、漁業に関わる各種の決まりや制度の紹介を県普及指導員が行い、若手漁業者の定着を図ります。

これらの事業は、小学生から社会人まで、様々な年齢層の方を対象としています。参加者の中から、毎年数名ずつの漁業就業者が出てはいますが、定着に至るのはほんの一握りにとどまります。腰痛、船酔いなどで断念する者、思い描いていたよりつらいと逃げ去る者がほとんどですが、その中でもきらりと光る人材が残ってくれているのも確かです。

## 2. 後継者不足だが、自分の子には継がせたくない（継がせられない）。

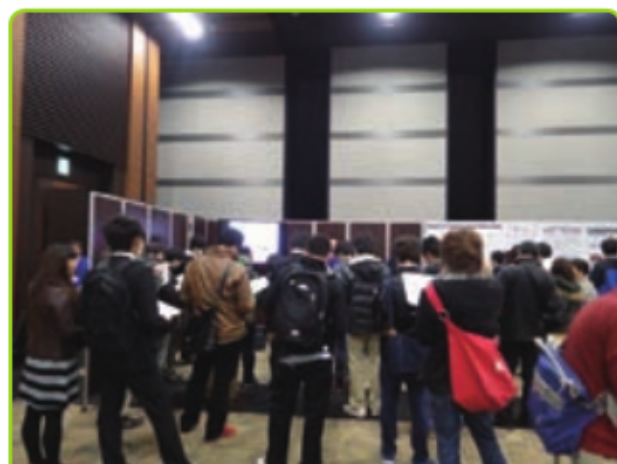
前述のように、漁業者の高齢化（後継者不足）は甚だしいのですが、これにはいくつかの理由があります。その一つは、漁獲量が減少し、現在の漁業収入では漁家経営がままならない、もしくは不安定すぎると考えている現役の船主が多いことです。船主は、現在の収入では、家業を継いで、結婚し、漁家経営を継続するには厳しいと考え、子を他の職業に就かせたいと思っています。また、昔と比べ教育環境が良くなったほか、職業選択の多様化を受け、子の将来設計を漁業にとらわれずを選んでほしいという親心が広まってきたことも背景にあるようです。

## 3. もうかる仕事なら人が集まるのか？（漁業就業に求める目的の多様化）

なぜ、漁業を職業としているのか？昔は考える余地もなく家業を継いだ時代がありました。しかし、現在は職業を自由に選択

できる社会環境が整っています。積極的に漁業に就業する理由は何か？もうかるだけではない生き方を求める機運を最近は特に感じます。

平成27年3月21日に、東京半蔵門で開催した「漁業就業者支援フェア2015」の会場には、あふれんばかりの若者が集まりました。千葉県からは、漁業者が3ブース、県が1ブースの4ブースを出展しました。今回は大変多くの学生が集い、過去最高の382人が来場しました。彼らの多くは、漁業の大変さを知りません。一方で、それに余りある楽しさも充実感も知らないでしょう。「もうかる」のはそこそこに、「自然からの恵みを自分達の知恵を振り絞って享受していく仕事に魅力を見いだしたい」と集まってきたことにうれしくなりました。あきらめるのはまだ早い。「漁師になりたい」という人の流れをうまくつなげるとともに、「そこそこにもうかる」漁業の受け皿を常に準備できるよう、普及指導員として現場を鼓舞し続けて行かなくてはならないと考えています。



漁業就業者支援フェア2015に集まった多くの学生達。